

資源の有効活用

CASIO now!

資源を有効活用するために

限りある地球資源を大切に使用するためには、投入資源の最小化、事業活動の結果として出る排出量の最小化および再資源化等の再循環にあると考えています。カシオは、「水」「紙」の省資源目標と「廃棄物」の削減目標を立て推進しています。

さらに、法規制で管理すべき化学物質排出移動量届出制度 (PRTR) や揮発性有機化合物 (VOC) についても、削減目標を立てて推進しています。また、再資源化を促進するために、指定有害化学物質を含有しないグリーン購入の推進を図っています。

環境負荷は
「毎日改善」へ



環境センター
山岸 正克

2008年10月導入を目標に、環境経営情報システムの導入計画を推進しています。これは、環境行動目標のPDCAサイクルや個別事業所単位の環境負荷の「見える化」を実現するツールです。このシステムが環境経営を「毎日改善」するためのお役に立つことを願っています。

● 廃棄物削減

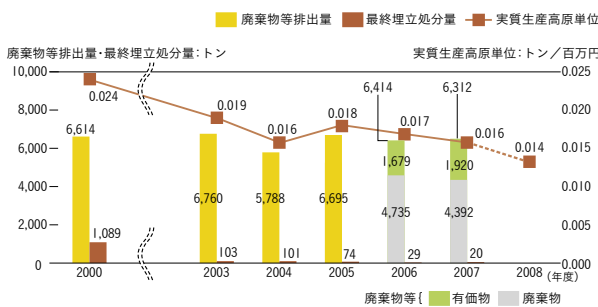
2007年度の廃棄物排出総量は7,676トンで、国内拠点が82% (6,312トン) を占めますが、国内の最終埋立処分量は国内総量の0.33%である21トンまで削減されています。これは、廃酸、廃アルカリ等を有価物化したり、焼却灰もセメントなどの原料として有効利用した結果です。ただし、国内廃棄物排出量原単位は0.016で、「2008年度までに2000年度比40%削減」の目標値「0.014」には達していません。また18%を占める海外については、生産拠点目標は2006年度に達成したため、新たな海外生産拠点目標として「廃棄物排出量

の生産高原単位を2004年度に対し、2012年度に30%削減」を掲げ推進中です。なお、海外生産拠点の排出量は1,364トンで、その77%にあたる1,056トンは再資源化しています。また、海外生産拠点の事業拡大に伴い、段ボール箱などの廃棄物も増えており、生産・資材物流工程の梱包材削減を検討していきます。

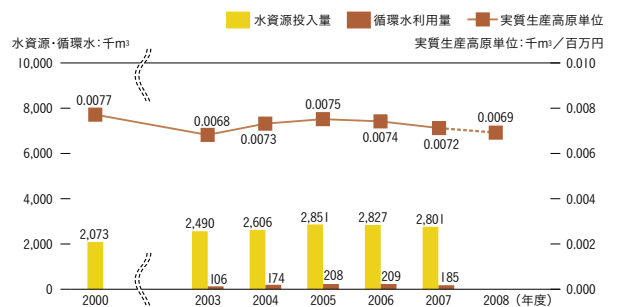
● 水資源利用料の削減

2007年度の生産拠点水資源投入総量は3,185トンで、その約88%が国内で使用されています。循環水の利用量は231トンあり、水資源投入総量を約7%削減できました。また、

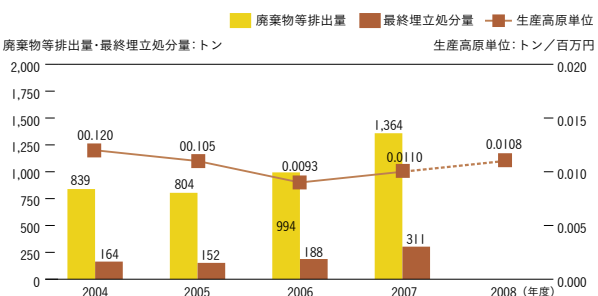
● 廃棄物等排出量・最終埋立処分量および実質生産高原単位の推移 (国内全拠点)



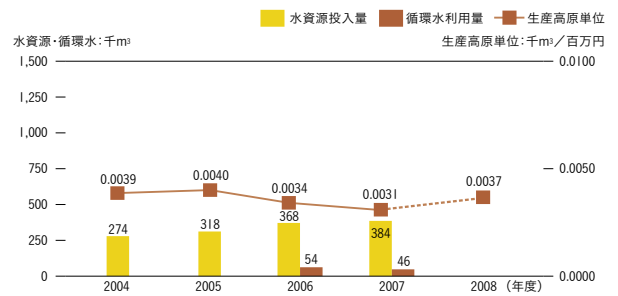
● 水資源投入量・循環水利用率および実質生産高原単位の推移 (国内生産拠点)



● 廃棄物等排出量・最終埋立処分量および生産高原単位の推移 (海外生産拠点)



● 水資源投入量・循環水利用率および生産高原単位の推移 (海外生産拠点)



>>> 資料 ・ P 16 「廃棄物の削減」 (デバイス事業、エレクトロニクス機器事業)

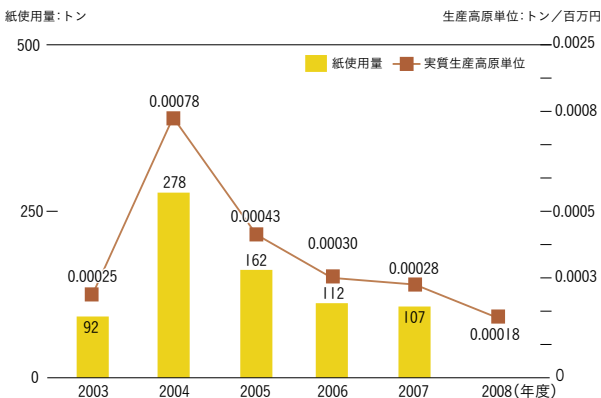
>>> 資料 ・ P 16 「水資源利用量の削減」 (デバイス事業、エレクトロニクス機器事業)

国内生産拠点の水資源投入量はデバイス事業が約98%を占めています。今後も循環水の利用量増加やその他の改善に向けて推進していきます。

● 紙資源利用量の削減

国内事業所の紙使用量は、2008年度までに30%削減(2004年度比)の目標に対して、2007年度の紙使用総量は107トンで目標に対して55%超過した水準にあります。2008年度目標に向けて、ITツールの活用によるペーパーレス活動を一層推進します。

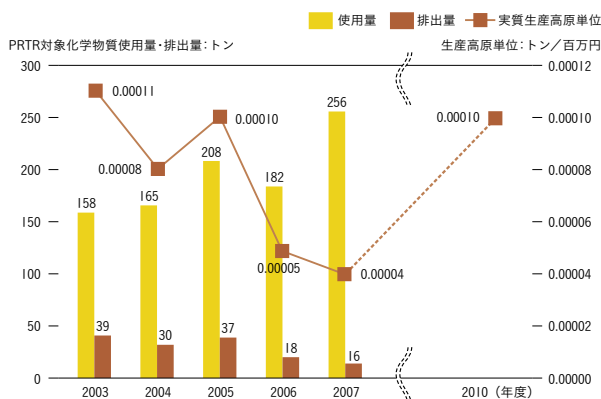
● 紙使用量および実質生産高原単位の推移(国内全拠点)



● PRTRの削減

PRTR(化学物質排出移動量届出制度)対象化学物質については、「排出量実質生産高原単位を、2003年度に対し、2012年度までに40%削減」を新たな目標として取り組んでいます。2007年度の排出総量は16トンで、2003年度の排出総量39トンと比べ、総量で約59%削減しました。これは、酢酸2-エトキシエチルを代替材に切り替えるなど、製造プロセス改善の成果です。ただし、今後の事業拡大による総量増加と価格低下が予測されるため、継続して達成に向けた改善活動を行います。

● PRTR対象化学物質使用量・排出量および実質生産高原単位の推移(国内生産拠点)

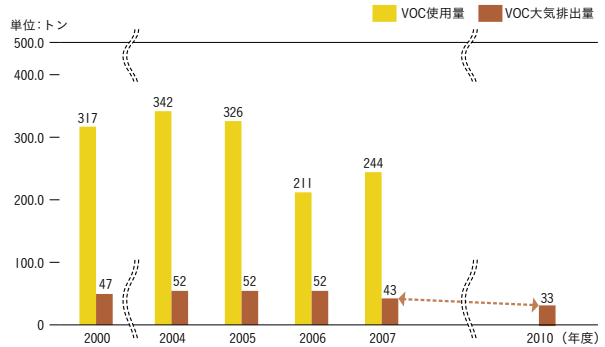


>>> 資料 ・ P 17 「PRTRの削減(国内生産拠点)」

● VOCの削減

VOC(揮発性有機化合物)削減目標は、電機電子4団体の自主行動目標に合わせ、「VOCの指定20物質について大気排出量を2000年度に対し、2010年度までに30%削減」としています。2007年度の大気への排出総量は43トンで、2000年度の排出総量47トンに対して8.5%減少しています。これは、カシオマイクロニクスが設置した集気用のスクライパーの設備投資により生まれた成果です。

● VOC使用量および大気排出量の推移(国内生産拠点)



>>> 資料 ・ P 18 「VOCの削減」

● NOx・SOx・ばいじんの削減

NOx、SOx、ばいじんの大気排出量はそれぞれ約18トン、5トン、1トンで2006年度比でそれぞれ約77%、77%、50%の削減になりました。この削減の主な要因はA重油によるコージェネレーション(熱電供給発電機)を廃止したこと起因し、削減に占める比率はNOxで99%、SOxで82%、ばいじんで87%でした。

>>> 資料 ・ P 18 「NOx、SOx、ばいじんの削減」

● グリーン購入の推進

カシオでは、環境に配慮した文具・事務用品・OA機器(ソフト除く)などの間接材商品を積極的に購入するよう、「グリーン購入」を徹底推進しています。「CATS e-Pシステム導入拠点」におけるグリーン購入比率※は、2003年度に目標として掲げた「グリーン購入比率=2007年度目標60%」を、2006年度に1年前倒しで達成し、2008年度には新目標として掲げた「グリーン購入比率=2009年度目標70%」の達成を目指し推進しています。導入拠点数は、2007年度に13社導入(計15社)、さらに2008年度に5社導入し合計20社に拡大を図り、カシオグループ全体のグリーン購入を推進していきます。

※

$$\frac{\text{環境マークのついた文具、事務用品、OA機器類(ソフトを除く)の購入件数}}{\text{カタログに掲載されている文具、事務用品、OA機器類(ソフトを除く)の購入件数}} \times 100$$

>>> 資料 ・ P 19 「グリーン購入(件数ベース)」